

行仙宿で三井寺奥駈行の接待

◇実施日 5月23日(金) 曇り時々小雨

◇参加者 沖崎吉信、阪口雄二、濱野兼吉、児嶋道夫、杉本和巳、

西克、大江加予子・徳子、生熊千満子、高階鈴子・美根子、梶野照雄、高橋桂太(地藏岳ピストン) 13名

今年の初めに三井寺の秋田修験部長から、本年5月に奥駈行を行うのでよろしくお願いしたい。との連絡があった。その後3月10日に福家執事長と秋田部長が拙宅までおいでくださって、御挨拶と計画の概要をお聞きした。23日に行仙宿を通過し持経宿に宿泊されるので、行仙宿での接待を行事予定に組み入れた結果、12名の皆さんから参加の申し出があった。接待のみそ汁とお茶、お菓子などの用意は大江さん親子にお願いした。徳子ちゃんはこの日のために休暇を取ってくれたようだ。高橋君は一人で地藏岳までをピストンすると連絡があった。

三井寺一行は、未明の午前1時頃に玉置神社の駐車場を出て、お昼ごろに行仙宿で昼食を摂り、夕方、持経宿に入り宿泊。翌日、前鬼に下山予定となっている。参加者は27名で、秋田部長から「体調不良などでリタイアする人があれば、池原のスポーツ公園まで送り届けてください」とのお話があった。



満載で登る



幟も立てて接待の準備



当日、午前8時30分、下北山村役場駐車場に集合し、沖崎から本日のスケジュールを説明、行仙宿登山口に4台で出発した。

登山口には高橋君の車が停まっていた。いつものようにモノレールに荷物を満載して、梶野、児嶋の二人が乗り、他の10人は歩いて登った。登りだしの急坂を喘ぎながら歩き、40分ほど掛かってやっとコジマハウスに着いた。先着した元氣組がすべての荷物を運び上げてくれていた。

午前10時20分ごろに小屋に着くと、各々が作業を始めている。特別にお願いや指示をしなくても、それぞれの役目を理解してくれている。女性陣はかまどに火を入れ、みそ汁の具を用意する。器の煮沸やお堂の清掃などで忙しい。男性陣は小屋南の三差路に27名が座れるよう、長椅子やテーブルの設置を行う。児嶋さんはハシゴを伸ばし屋根の上で何やら作業中。そんな中、午前11時過ぎに遠くから法螺貝の音が聞こえてきた。あと15分もすれば到着するぞ。

早く準備を、との声で皆さんヒートアップし声も大きくなる。何とか準備が整ったが、15分、30分と時が進んでも法螺貝の音が近づいてこない。午後0時過ぎ、やっと近くで法螺貝の音が聞こえ、八大金剛童子で勤行しているようだ。



三井寺一行が到着

お堂で勤行

味噌汁はお替りも

20分ほどして三井寺の一行が到着。全員元気そうだ。福家紀明大先達に挨拶する。椎木さんの顔も見える。すぐにお堂前に整列され勤行を行う。椎木さんに聞いた所、午前1時30分に玉置山を出て、途中21世紀の森で一人リタイアしたが、行仙宿でリタイアする者はいない。とのことだった。味噌汁とお茶を振る舞う。見てみると皆さんの昼食はおにぎりだけのようだ。塩分のある味噌汁がよかつたらしく、大半の人がお替りされていた。行者さんにもコーラは人気で、20本ほど用意していたものが売り切れてしまい、梶野君が管理棟から1ケースを運んで追加した。45分ほどの滞在で持経宿に向けて出発された。池原で待機中の秋田部長に、リタイアが無い

ことと、午後1時に出発したことを伝えた。



三井寺の皆さん

気温は15℃と低い

本日の参加者

我々も一行を見送ってから昼食を摂る。食事中に、地藏岳まで行っていた高橋君が戻ってきた。白花のイワカガミを写真にとるために行ったそうだ。帰りに捲き道を通ったが、数力所で崩れていて、歩きにくかったそうだ。昼食後、後片付けと三差路にあった莊川桜の保護ネットを撤去した。莊川桜はすでに枯れて跡形もなくなっていた。梶野君が怒田宿の摩看板に屋根を付けに行くのを見送って下山した。

(記：沖崎)

怒田宿の摩看板に屋根を取り付け

小雨がぱらついてきたので、玄関脇にあった傘を持って怒田宿に向かった。木の枝から落ちる滴が頭に当たるが、頭上が開けた場所では傘の必要は無かった。行仙岳は行きも帰りも捲き道経由とした。



傾いた石柱も直されていた

怒田宿に到着

捲き道に崩れなどの異常は無かった。北側の捲き道分岐にある石柱は、乾さんたちによって傾きが直されていた。



屋根取り付け

三井寺の碑伝

下山

怒田宿で摩看板に屋根を取り付け。写真を撮って行仙宿に戻った。

行仙宿で倉庫にある足場パイプを確かめ、架橋現場で型枠の型取りを段ボールに写し取って下山した。
(記：梶野)

行動タイム

14:30 行仙宿 14:54 行仙岳南→15:07 怒田宿 15:20→15:58 行仙宿→16:50 補給路登山口